



和布教室



R 6.9.17(火)・24和布を使った押絵で「吊り飾り」づくり

下村小学校の4年生と世代間交流会



R 6.10.2(水) 保護者、自治会長等とゴミ焼却場と県下水道公社の見学

ふれあい里まつり



R 6.10.20(日) 置県100年を記念して作られた「下村音頭」を踊る法被姿

第3回下村を知ろう



R 6.11.9(土) 「牛ヶ首用水と農業」と題しての富山ふるさとマスターの講演会

表紙写真

地域の伝統や文化を知り、伝えよう

下村コミュニティセンター

下村コミュニティセンターは射水市の東部に位置し、近くに『やんさんま祭(流鏝馬)』や『稚児舞』で有名な下村加茂神社があります。当センターでは剣詩舞、大正琴等のサークル活動の他、生涯学習として、和布教室や『下村を知ろう』と言う教養講座が開かれています。また、小学校4年生とその保護者、自治会長がゴミ処理・下水処理施設を見学して環境問題について一緒に学んでいます。

現在は一時途絶えた『下村音頭』の復活と普及に取り組んでいます。

〈本号の主な内容〉

- 2面 ● 第18回富山県公民館大会
 - ・会長・県教委挨拶
 - ・講演概要
- 3面 ● 委嘱公民館の発表
 - 公民館主事・指導員等現地研修会
- 4面 ● 第55回東海北陸社会教育研究大会
 - 富山大会・第52回富山県社会教育大会
- 5面 ● 公民館館長研修会
 - ・パネルディスカッション概要
 - ・委嘱公民館の発表
- 6面 ● わが町の公民館活動
 - ・富山市立呉羽公民館
 - ・上市町立柿沢公民館
- 7面 ● わが町の公民館活動
 - ・砺波市立柳瀬公民館
 - ・魚津市松倉コミュニティーセンター
- 8面 ● 表彰館紹介
 - ・金山コミュニティセンター

第18回富山県公民館大会 開催

9月12日(木)、第18回富山県公民館大会は、約280名が参加して、富山県教育文化会館ホールで開催された。

開会にあたり中西会長から、能登半島地震の影響で東海北陸公民館石川大会が中止になった経緯と被害の大きかった能登地区の公民館が復旧復興のために今後何をどのように進めていけばよいのかを話し合うフォーラムを開催することの紹介の後、「昨年度の全国公民館インターネット活用コンクールで、高岡市立福岡公民館が金賞、富山市立神保公民館が銀賞を受賞した。集合対面型の事業にデジタル活用を組み合わせる『公民館 de つながるモデル事業』の成果である。」との挨拶があった。



挨拶する中西会長

全国・東海北陸・富山県公民館連合会の表彰式に続いて、来賓の新田知事代理の小杉健県教育次長から「1月の能登半島地震発生後、県内でも多くの避難所が開設されましたが、その多くが公民館を中心としたものでした。また、公民館は、避難所としてだけでなく、情報共有や支援活動の拠点として、地域住民を支えてこられました。改めまして、深く感謝申し上げます。



挨拶する小杉県教育次長

こうした自然災害の増加に加え、デジタル化の進展など、私たちの生活環境は急速に変わっています。これらの変化に対応し、地域の持続的発展を実現するためには、公民館が培ってきた地域との強い絆を生かして、住民の皆さんと共に新たな取り組みを進めていくことが重要です。そして、公民館の基本的な機能『つどろ』『まなぶ』『むすぶ』の3つを大切に、公民館が地域コミュニティの中心としてさらに発展することを願っております。」との祝辞があった。

【講演】

1. 演題

「公民館の不易流行
～ひろげる・つながる・むすびあう～」

2. 講師

那覇市若狭公民館 館長 宮城 潤 氏

3. 講演内容(要旨)

- (1) 若狭公民館の取組のポイント
 - ・課題解決×活動の魅力
 - ・広報活動の充実 ※「広聴」も大切
 - ・「やりたい」という思いの後押し
 - ・多様な住民の存在を想像したアプローチ
 - ・旗を立てる
 - ・みんなでつくる(お客さんをつくらない)
 - ・ありたい姿を目指して動きながら展開する
- (2) パーラー公民館
 - ・公園等にパラソルを立てた移動式公民館
 - ・「アート」が生み出す変化
 - ・スタッフは「何もしない」
- (3) 防災の取り組み
 - ・リッカ！ヤールーキャラバン！
 - ・なは防災キャンプ
 - ・防災×演劇 等
- (4) 「相談」から展開した取り組み
 - ・無料英会話教室「ELIPO」
 - ・うみそら上映会 in 若狭
 - ・学習支援「土曜朝塾」 等
- (5) 児童館と連携した子どもの居場所事業
 - ・テーマ「子どもに優しいまち」
 - ・食事支援 ・体験活動 ・アート部 等
- (6) 持続可能な地域づくりに向けて
 - ・受け入れる素直な心と批判的思考
 - ・学びと活動の循環
 - ・ソフト(学習プログラム)ではなく、OS(主体的な活動が起こりやすい環境)をつくる
 - ・公民館に携わる者自身が学び続け、変わり続けていくことが持続可能な地域づくりにつながる



講演する宮城氏

※富山県公民館連合会のホームページで、講演の動画を配信していますのでご覧ください。



表彰に輝いた方々

【富山県公民館連合会】

・優良自治公民館

富山市堀川本郷自治公民館 高岡市上牧野公民館 高岡市渡り自治公民館

・永年勤続表彰(20年以上)

林 真由美 馬場 均 野島 裕子 安田恵美子 荻野 康子 岡田 千春 野原 英子
志鷹 崇子

・永年勤続表彰(10年以上)

奥野 薫 谷井沙緒里 山口 明子 吉田 洋 盤若さおり 三島小緒里 山本 美紀
吉村美智子 平澤 千春 干場 光邦 中屋 和義 境 豊志 川東 喜博 齊藤 次子
中嶋 紀子 池田美智子 上田 彩佳 道畑 慎一 山田与志信 安川 一雄 寺林すま子
澤田 淳 南部さおり

令和5年度公民館活動研究委嘱公民館の実践発表

地区防災計画策定に取り組んで

福野北部地域づくり協議会
安全環境部会 副部会長 川森 健一 氏

1. 主題について

一級河川の小矢部川と庄川の間
にあり、水害の危険性が高い地区
である。しかしながら住民全体へ
の水害の危険性や指定避難所、地
域避難所等の周知不足、また組織
的な計画がされていないなど“地
区防災計画”の必要性があった。



発表する川森副部会長

2. 実践事例

富山県防災士会「地区防災計画策定提案書」を
参考に防災士等に指導を受けながら、講演会やワ
ークショップ、実地訓練を行い、二つの基本方針
を決定。

一つ目は“豪雨災害に対する対応力を備える”
として自助力の向上。災害別に避難時の重要事項
「何を」「いつ」「やるべきこと」を一覧表にし、

イラストを入れ、分かりやすい表現で読みたくな
る紙面にした。

二つ目は“防災活動体制を構築できるネットワ
ークづくり”。避難行動要支援者への支援計画と
して要支援者への意思確認や避難支援者の決定、
支え合いマップづくりの実施。また情報伝達方法
では、避難支援者が安心して要支援者を支援でき
る体制づくりが必要となり「向こう三軒両隣」近
隣住民の協力・応援がとても大事である。様々な
苦労もあったが、地区防災計画は策定完了した。

3. 成果と課題

地区防災計画は、まだ完成ではない。早急に指
定避難所の開設・運営マニュアルの作成や支え合
いマップの更新をする。また、要支援者の個別避
難計画の作成も重要等と課題はある。今できるこ
とから進めていきたい。

※富山県公民館連合会のホームページで、
実践発表の動画を配信していますのでご
覧ください。



令和6年度公民館主事・指導員等現地研修会

黒部市で開催 講話、施設見学、現地見学を通して研修を深めました

10月3日(木)、現地研修会は、県西部から69名が
参加して開催された。

開催にあたっては、新川
地区の公民館主事・指導員
評議員会の皆さんのご協力
のもと行われた。



民俗資料館見学の様子

各地区を出発したバス4
台は2台ずつ2班に分かれ、午前9時40分頃から
以下の2か所を現地見学した。

① 黒部市歴史民俗資料館 (うなづき友学館)

- ・愛本勿橋復元模型見学
- ・架橋技術・日本建築匠の技観覧
- ・古文書・紀行コーナー
見学



吉田科学館見学の様子

② 黒部市吉田科学館

- ・プラネタリウム鑑賞
- ・立山黒部ジオパーク映画「剣の山」鑑賞
- ・科学実験コーナー見学

その後、黒部市ふれあい交流館
「あこやーの」に移動し、ジオパ
ークをテーマにした特注弁当をい
ただいた。



講話する谷口館長

午後13時30分からは、昨年10月
にオープンしたくろべ市民交流セ
ンター「あおーよ」内にある黒部
市立三日市公民館を訪問し、全体
研修会を開催した。開会式に引き
続き、谷口政芳館長さんに「あり
がとう『三日市公民館』これか
らは市民交流センターで『あおー
よ』と題して講話をいただいた。

最後に「あおーよ」内の以下の施設を見学した。

- 1階：市民の集いのための“にぎわいフロア”
- 2階：生涯学習の拠点“学びあいのフロア”
- 3階：親子がくつろぐ“ふれあいのフロア”
- 4階：知識に触れて学習“深めあいのフロア”

来年度は、砺波市で現地研修会を開催する予定
です。多数のご参加をお待ちしています。

表彰に輝いた方々

【全国公民館連合会表彰】

・優良職員表彰

荻野 康子

・永年勤続表彰 (15年以上)

森川 美子 三浦みゆき

矢代美樹子

竹橋 紀子

林 紀世美

御器谷 勉

道林 栄行

本村 邦子

【東海北陸公民館連合会表彰】

・優良職員表彰

谷口 政芳 野原 英子

第55回東海北陸社会教育研究大会富山大会 第52回富山県社会教育大会

大会主題 『目指そう！ウェルビーイングな社会』
～家庭や地域の教育力向上を通して～

10月10日(木)、11日(金)、第55回東海北陸社会教育研究大会富山大会が第52回富山県社会教育大会を兼ねて、富山県民会館で開催された。

東海北陸6県1市から700名を超える参加があり、富山県公民館連合会からは105名が参加した。

1日目は、越中五箇山こきりこ唄保存会のアトラクションでスタートした。開会行事では、中西彰富山県公民館連合会会長が開会の言葉を述べ、主催者を代表して山西潤一東海北陸社会教育委員協議会連合会会長が、「本日、東海北陸6県1市の社会教育委員や公民館関係者など多くの皆様にご参加いただき、本大会が富山県で開催できることを心より感謝申し上げます。私たちは今、人口減少や少子高齢化、地域のつながりの希薄化など、さまざまな社会課題に直面しています。予測困難で不確定、複雑で曖昧な未来社会にあって、自らが社会の創り手となって課題解決し、持続可能な社会を維持・発展させ、多様な個人がそれぞれに幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるウェルビーイングの向上が目的です。そんな社会背景を視野に入れ、本大会の主題は、『目指そう！ウェルビーイングな社会～家庭や地域の教育力向上を通して～』とさせていただきます。学校教育のみならず、家庭や地域が一丸となってウェルビーイングな社会作りに取り組む、そんな新たな社会教育の振興方策についての研究協議が深められることを期待したいと思います。」と挨拶した。



挨拶する山西会長

表彰では、富山県公民館連合会高井清高副会長が東海北陸社会教育委員協議会連合会表彰を受賞し、富山県公民館連合会中村茂信副会長が富山県社会教育大会社会教育功労者表彰を受賞した。



受賞する中村副会長

来賓の新田知事代理の蔵堀祐一副知事から「皆様には、青少年の地域活動や親子・世代間のふれあいの促進など、社会教育の振興に多大な貢献をいただき、感謝申し上げます。また、表彰を受けられた皆様には、誠におめでとうございます。皆様の長年のご功績に敬意を



受賞者代表挨拶をする高井副会長

表します。本県は、ウェルビーイングを施策の中心に据え、幸せを実感できる富山県の実現に取り組んでおり、今回の大会で、社会教育に関わる皆様が『目指そう！ウェルビーイングな社会』をテーマに意見交換されることは非常に意義深いものです。この大会を契機に、引き続き社会教育の充実に努め、ウェルビーイングな社会に向けてご尽力いただけるようお願い申し上げます。県外からお越しの皆様にはこのたびのご来県を機に、美しく豊かな自然や多彩な歴史・文化、『寿司といえば、富山』と自負する新鮮な海の幸、山の幸など、本県の魅力の数々を大いに実感していただき、『富山ファン』となっていただければ幸いです。」との祝辞があった。

表します。

本県は、ウェルビーイングを施策の中心に据え、幸せを実感できる富山県の実現に取り組んでおり、今回の大会で、社会教育に関わる皆様が『目指そう！ウェルビーイングな社会』をテーマに意見交換されることは非常に意義深いものです。この大会を契機に、引き続き社会教育の充実に努め、ウェルビーイングな社会に向けてご尽力いただけるようお願い申し上げます。



挨拶する蔵堀副知事

県外からお越しの皆様にはこのたびのご来県を機に、美しく豊かな自然や多彩な歴史・文化、『寿司といえば、富山』と自負する新鮮な海の幸、山の幸など、本県の魅力の数々を大いに実感していただき、『富山ファン』となっていただければ幸いです。」との祝辞があった。

【講演】

1. 演題

「未来まで残したい『富山の本気』」

2. 講師

フォトグラファー イナガキヤスト 氏

3. コーディネーター

とやまアナウンスアカデミー 米原 由紀子氏

4. 講演内容(要旨)

- (1) フォトグラファーになったきっかけ
 - ・2020年コロナで外出できない人や帰省できない人たちに富山の風景を楽しんでもらおうとSNSに写真をアップしたところ話題になる。
 - ・美容師、アパレルを経て写真家になる。
- (2) 作品紹介
 - ・富山県の透明度の高い海や入道雲、緑豊かな溪谷などのとても美しい風景写真の紹介(その美しさに客席から感動の声が上がる)
- (3) ミニワークショップ
 - ・携帯で上手に写真を撮る秘訣!
- (4) ウェルビーイングについて
 - ・能登半島地震の被災地ではシャッターを押せなかった。今の日常は当たり前ではない。日常の小さな幸せや地元のよいところを写真に残すことが、ウェルビーイングにつながる。



講演するイナガキヤスト氏

2日目は、5つの分科会に分かれて研究協議が行われた。

「これからの公民館の役割や地域社会との多様な連携のあり方を考える」

富山県公民館館長研修会開催

11月20日(水)、県公民館館長研修会は、142名が参加してアイザック小杉文化ホールで開催された。

開会にあたり、来賓の県教委生涯学習・文化財室の河原課長代理の米井和代副主幹から「県では昨年度より『公民館 de つながるモデル事業』を実施しており、従来の対面型の公民館活動にデジタル技術を取り入れて多様な形で人々がつながる活動を支援しています。『スキルアップ講座』ではオンライン講座やSNS、二次元バーコード活用の実技講習が行われました。また、Zoomを活用してオンラインでの交流も実施され、大変好評でした。本日行われるパネルディスカッションや公民館の実践発表から、これからの公民館の役割や地域社会との連携のあり方について共に学び、考えていこうとする姿勢にこそ、大きな意義があると考えています。」との挨拶をいただいた。



激励の挨拶をする米井副主幹

【パネルディスカッション】

1. テーマ

「ミライにつながる公民館」

2. パネリスト

山室校下自治振興会 事務職員 布施 智課氏
高岡市立福岡公民館・西五位公民館
生涯学習支援員 横越知亜紀氏
富山市立神保公民館 主事 永山 雅子氏

3. コーディネーター

富山県公民館連合会 会長 中西 彰

4. 内容(要旨)

- (1) これまでの活動から
 - ①「笑顔でつながる公民館(コロナ禍を乗り越えて)」の紹介(布施氏)
 - ②「福岡から全国へ! ICTでひろがる交流の場」の紹介(横越氏)
 - ③「インターネットを活用した様々な活動」の紹介(永山氏)
- (2) 主な意見交換
 - ・記録より記憶に残る神保らしい事業に取り組んでいきたい。地域の方々と体験を共有することが地域の力となっていく。(永山氏)
 - ・情熱は伝播する。館長さんが思いや熱意を支え後押ししてくださり、その情熱が住民に届くことが大切。(横越氏)
 - ・公民館は駅のプラットフォーム。目的をもって行きかう人たちに必要な情報を渡し、適切なところにつなぐパイプ役となり、笑顔で対応したい。(布施氏)



パネルディスカッションの様子

※富山県公民館連合会のホームページで、パネルディスカッションの動画を配信していますのでご覧ください。



研修2 令和5年度公民館活動研究委嘱公民館の実践発表

学校・児童クラブ及び他団体との連携・協働を推進し、子供の育ちや学びを支える公民館の役割

朝日町立大家庄公民館 館長 林 清唯 氏

1. 主題について

少子高齢化、働き方や価値観の多様化等に伴い、従来の方法や内容で公民館事業を行うのは難しい。公民館も時代の流れや社会変化に柔軟な対応をしていく必要がある。



発表する林館長

2. 実践事例

参加者が関心を持ち、気軽に参加できるよう科学工作教室やシニア向け音楽鑑賞会を開催。また、「出前公民館」として放課後児童クラブなどに出かけて事業を実施したところ、参加者人数が増加した。その他、コロナ禍を経て参加が激減した伝統文化・芸能の継承活動では、他地区の子どもたちにも情報発信したところ参加人数は増え、活動に活気がでてきた。また、小学校と連携し、「田植祝唄」を音楽の授業で行った。学校との関係は協力的・友好的なものになった。

3. 成果と課題

様々な工夫をし、他団体等に働きかけることで、相互の理解が進み、双方に良い効果があった。若年層への情報発信や伝統文化・芸能などの文化資源の記録と保存にも挑戦したい。

元気で明るいまちづくりを目指して

富山市立東部公民館
東部校下ふるさとづくり推進協議会 会長 本田 敏也 氏

1. 主題について

講座や事業の参加者は年配の方々がほとんどだ。子育て世代の方への周知不足は否めず、また、午後に開催することが多かったことから、子どものお迎えの時間と重なる等の理由で参加しづらいということが分かった。

2. 実践事例

開催時間を午前中に変えたり、親子を対象にした夏休みや土・日曜日に開催したりする事業に取り組んだ。例えば「しいたけ菌打ち体験」や「手話講座」等のような幅広い年齢層が興味を持てるものにしたことにより、子育て世代の方や初めて参加される方が増えた。中でも親子を対象にした「楽しい実験教室」では、身近にある段ボール箱で空気砲を実際に作ったり、静電気の力を利用した実験をしたり、親子で一緒に楽しみながら学ぶことができた。



実験を披露する本田会長

3. 成果と課題

他の諸団体と協力し、いろいろな世代の方が一堂に集まって学び合えるような元気で明るいまちづくりを目指していきたい。

※富山県公民館連合会のホームページで、実践発表の動画を配信していますのでご覧ください。



住民参加の 地域づくりを目指して

富山市立呉羽公民館

呉羽山の西側に位置する呉羽地区は、県道富山高岡線沿いに多くの商業施設や事業所、教育施設等が立ち並ぶほか、呉羽山丘陵地を中心に広大な梨畑が広がるエリアで、令和6年8月末現在の人口は12,160人、世帯数は5,548世帯を数えます。

県道沿いに位置する呉羽公民館は、呉羽会館内に図書館やミニ児童館等と併設されており、広く呉羽地域の皆さんに利用されています。

公民館では、日頃から、地区住民の皆さんの毎日の生活にときめきや新しい発見があるような魅力的な行事・講座の開催を目指し、研修バスツ



大相撲名古屋場所観戦ツアー

ーや文化祭、住民運動会、敬老会のほか、手芸・料理等の各種教室などを企画しています。

近年の研修バスツアーでは、呉羽出身の朝乃山関の応援バスツアーとして名古屋場所を観戦しています。

残念ながら、今年度は、直前のけがにより朝乃山関は休場となりましたが、参加された皆さんには、大相撲の迫力や雰囲気を生で感じられる良い機会となりました。

このほか、呉羽会館では、これまで場所中のパブリックビューイングでの応援も行っており、朝乃山関の一日も早い復活を期待しています。

また、文化祭では、ステージでのアトラクションのほか、作品展や健康展、非常食コーナー、バザーなど、文化・健康・防災等に関する各種コーナーを設け、多くの方にお集りいただいています。

これらのほかにも、いろいろな活動を通じて、今後も地区住民の皆さんが、立場や世代、職種等を超えて集い、地域の活動拠点としてお互いの顔が分かり、寄り添える場所となるよう取り組んでいきたいと思っています。

わが町の公民館活動

上市町立柿沢公民館

気軽に集い、 エンジョイできる公民館へ

柿沢公民館は、上市町の中心市街地と大岩山日石寺で有名な大岩地区との間の田園地帯、柿沢地区にあります。

地区の世帯数は400世帯程で、少子高齢化や人口減少が進み、校区の小学校は、令和8年度から町内中心部の小学校に統合する準備が進められています。

そのため、最近の公民館活動は、子どもたちが生まれ育った地区での思い出づくりに重点を置いて実施しています。

その中でも、町教育委員会で令和5年度から創設された新規事業「公民館学び・体験等支援事業」として実施した各種体験活動の一部をご紹介します。

令和6年5月と7月に、とやま国体でも使用された富山県上市カヌー競技場において、上市カヌークラブにご協力をいただき、カヌー体験会を開催しました。

当日は多くの方の参加をいただき、中には親子三世代で参加されたご家族もありました。

一人乗り・二人乗り・サップ体験などを通じて、早乙女湖の美しい景色を眺めながら、自然を体感することができました。

これからも地域の課題と向き合いながら、誰でも気軽に来館することができる公民館を目指して、世代間交流事業を始めとした、柿沢公民館ならではの地域活性化事業を進めていきたいと考えております。



カヌー体験会

地区民の交流を深め 心に残る行事の開催に努めています

砺波市立柳瀬公民館

砺波市柳瀬地区は庄川の西に位置し、九つの旧地区と二つの新興団地からなる田園地帯です。全体では約650戸でその約3分の2は新興団地にあり、人口は約2,000人です。地区内には北陸自動車道の高岡砺波スマートIC、県西部体育センターを含む運動公園、民間のヘリパッドなどがあり、近年ではオリーブ栽培園ができたり、半導体関係の大きな工場が操業を開始したりするなど変化を見せています。



祖父母といっしょにそば打ち体験

公民館の主な活動は、打ち上げ花火がラストを飾る『納涼祭』、野外で行う素朴で身近なという意味の『たんぼのコンサート』、敬老会と同時開催の『公民館まつり』、県内をバスで巡る『視察研修』、『二十歳を祝う会』、小学生を対象とした『庄川であそぼう』『神社であそぼう』『しめ縄作り』などがあります。

『視察研修』は毎回個人ではなかなか廻れないようなコース作りに努めています。今年度は「そば打ち体験と利賀ダム建設現場見学」というテーマで、子どもたちも参加しやすいように配慮して夏休み中の8月4日に実施しました。

前半はグループに分かれてそば打ちを体験し、昼食にそのできたてのそばをいただきました。後半は利賀ダムの工事現場を見学しました。工事事務所の方からダム建設の意義や進捗状況等について説明していただきました。数日後にダム本体工事の起工式の様子が報道され、タイムリーな見学でした。小学生の参加もあり有意義な視察研修になりました。

わが町の公民館活動

魚津市松倉コミュニティーセンター

地域の資源を活かした 活性化を目指して

松倉地区は、魚津市の西部中山間地に位置する自然豊かな地域です。

人口は897人と少子高齢化が進んでいますが、越中三大山城の一つである松倉城址を活かした地域活性化に取り組んでいます。松倉城は標高430mの山頂にあり、簡単には攻め落とせない「難攻不落」の城であったと言われていました。麓の鹿熊集落から松倉城本丸までの登城道が整備され、先人達が通った道に思いを馳せながら登ることができます。本丸には山桜が育成し、富山湾が一望できるなど、松倉城の素晴らしさが体感できます。

まずは、国史跡指定を目指し、住民ぐるみでの草刈り活動や松倉城散策などを行っています。

また、生涯学習事業も積極的に行っています。中でも、近隣地区にある農園での「ブルーベリー狩り」や、松倉金山跡での「金山巡り・砂金取り」など、地域資源を活用した異世代交流事業が好評です。

今後も中山間地域であるがゆえの問題を、中山間地域であるからこそその地域資源や特性（歴史・

文化、人とのつながり、地元で育まれた食などを活かし、活性化につなげていきたいと考えています。

地域活性化の目的は、地区住民が幸せでいきいきと暮らせること。住民同士で話し合い、楽しみながら取り組んでいきたいです。



砂金取り体験



金山コミュニティセンター 令和5年度優良公民館表彰 (文部科学大臣表彰)受賞

金山の未来を考える — 様々な垣根を超えた対話の創造 —

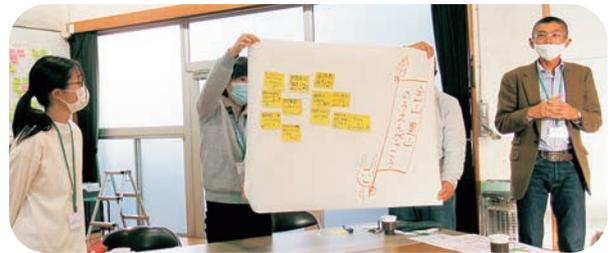
当センターが立地する射水市南部丘陵は、山林、里山、田園、ため池など自然と人間との共生により育まれた緑豊かな地域です。人口約1,300人、世帯数約500戸で人口減と高齢化が進んでいます。金山地域振興会の目標「元気で活気あふれる地域づくり」の実現に向け、20を超える団体と連携し様々な事業に取り組むとともに、地域の今を発信する「金山地域振興会だより」を平成21年から年4回発行しています。

令和3年度に当センターは、富山県公民館連合会公民館活動研究委嘱事業を受けました。活動している方の高齢化と固定化という課題解決に向け「垣根を超えた対話の創造」を研究主題とし、「金山の未来を考える」をテーマにワークショップを3回実施しました。主体的な参加、中立的な進行、オンライン活用等を研究の柱としました。垣根を超えた対話により、地域の魅力を再発見し課題を共有、課題解決に住民が主体的に参加する契機になったと思います。令和4年度にはワークショップ参加者から提案があった3つの事項、対話継続の場として「コミュニティかふえ金山」の開催、住民同士のゆずりあいのために「リアル掲示板」の設置、各町内の魅力を「金山地域振興会だより」に掲載を早々に実現。令和5年11月には、福井県あわら市細呂木地区の公民館長と町内会長が「コミュニティかふえ金山」に参加し、金山地区住民に混ざって地域課題とその対策について意見を交換しました。令和6年3月にはワークショップ「～つどう・はなす・つながる～わくわくする金山の未来をみんなで創っていきたい」を開催。地域で自然農業を営む農家特製「さつまいもチップ」を頬張りながら、「地震体験を語る」と「わくわくする金山の未来とは」をテーマにざくばらんに対話しました。

今年度は「コミュニティかふえ金山」を「わくわくカフェ金山」に名称変更し、地域住民を講師としたミニレクチャーを同時開催しています。住民との対話から金山文化祭では、新企画の「工作とeスポーツ」コーナーを設置。当センターの活動に馴染みの薄かった方の姿もあり、少しずつではありますが裾野の広がりを感じています。今後も住民と対話し続け、わくわくする金山の未来を地域の方と一緒に創っていきたくと思っています。



インターネット掲示板 Padlet の活用



金山の未来を考える Part 2 : 未来を創る



金山の未来を考える Part 3 : その後どうなった? さらにどうしよう?



「わくわくカフェ金山」でのミニレクチャー



住民の声から「リアル掲示板」と「金山文化祭新企画」

おめでとうございます！ 各種受賞者・公民館を紹介します

◇令和6年度「富山県教育功労者等表彰」

- ・優良社会教育機関：舟橋村立舟橋公民館
- ・社会教育功労者：永田晋治氏（富山県公民館連合会理事）